

Made in Forest

北海道の木の内テリア

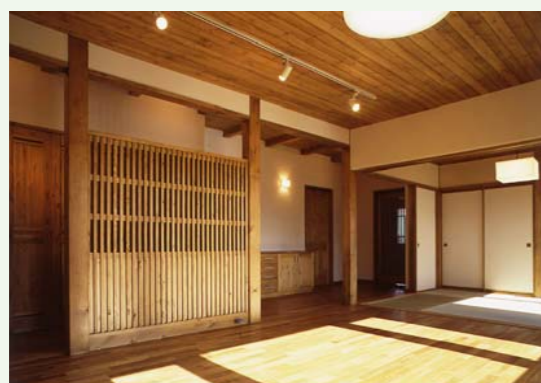
やわらかく暖かな北海道産の針葉樹、杉・カラマツ・トドマツを使った室内は北海道の寒い冬を快適に過ごすのにぴったりです。特に自然塗料で仕上げた床板のフローリングはおススメですよ。

香りが心地良い道南杉を自然塗料で仕上げた場合

1坪あたり ¥30,000~承ります。



北海道の木のインテリア



アンティーク仕上げのトドマツ材でコーディネート

木は環境にやさしい循環型資源の代表である。だから木をたくさん使った家造ろう。木で出来ることは木で造る。いたってシンプルなお家だ。もちろん近くの山、北海道産の木を使って家のインテリアをデザインするのだ。

北海道らしい家ってどんなだろう？ ずいぶん前から言われているが、これといった決め手が無い。きつと道内で建築にかかわる人達の永遠のテーマなのかもしれない。最近は断熱と気密性能の優れた冬暖かな家が北海道ならではの家ともいわれているが、なんだかピンとこないよね。

僕はやはり、日本の木組みの家の良さを残したいと思う。別に古民家みたいな家を新築することも無

いと思うけれど、無垢の木を集めて太い大黒柱を大胆に使う。当然梁も太くなる。デザインによって和風にも洋風にも変化するように、どこか懐かしさや心がホッとすると、木組みでシンプルな空間をつくりたいと思っている。

北海道の木や土などの自然素材を使う。魚の好みじゃないけど、赤身の多いスギを多用する本州の人



古色仕上げでくつと落ちついた雰囲気の内装になる

が、白身のトドマツで組んだ木組みの家を見ると、北海道独特の雰囲気を感じるらしいよ。

それにしても最近は、接着剤で形成した木材の柱や梁で建てる家が増えてきている。家に使われる化学物質、接着剤の総量もうなぎのぼりだ。だからこそ僕は、逆に無垢の木へのこだわりが年々強くなる。

50年後の家が、ただのゴミになる



梁を現しながらもシンプルにまとまった和室

か貴重な木組みの家として生き残るか。後者は、少なくとも再生資源として役に立ってくれることだろう。今100%無垢の木だけにこだわった家が建てられるの？と聞かれたら、答えはもちろんYES!

室内に梁や柱を見せるにしろ、見せないにしろ、構造材で使える樹種は限られてくる。北海道の針葉樹ならばエゾマツ、トドマツ、カラマツ、スギくらいのも。そうそう針葉樹は葉が針のようにとがった木で、まっすぐに伸びている木だよ。意外と知らない人が多いんだよね。で、広葉樹は葉っぱの広い木さ。広葉樹といえはナラ、タモ、クリ、カバ、セン、イタヤなどが一般的だけど、接着剤で張りぼての材料でもない限り、大黒柱や床柱にするのが精一杯。木が曲がっていて、枝を横に

北海道の木の家 ②



地域の材にこだわった道南スギの床と天井板の空間



明るいナチュラルカラーでまとめた木使いの空間

懐かしさを感じる
囲炉裏のある土間玄関ホール

えこすたとは
エコロジー、エコノミー、スタンダード、ライフスタイルなどを合わせて僕たちがつくった造語です。
健康な住まいは安全な食品と変わらないと言うコンセプトのもと、エコハウスづくりのための自然建材を扱うエコショップの店名にもなっているのです。

エコデザイナー 西條 正幸
1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「ビオプラス西條デザイン」代表取締役。自然派生活提案「えこすた」店主。
「自然素材デザイナー西條正幸のブログ」もヨロシク!